

第16号

2019年6月

きらら坂

関西セミナーハウス活動センターだより



後宮俊夫牧師のこと

榎本榮次

去年の暮、80年代の10年間、日本基督教団議長を務められた後宮夫牧師が96歳の人生の幕を閉じられた。不思議な人だった。

容姿はお世辞にもいいとは言えず、説教は何を言っているのか分からない話を長々とする。学歴はなく学閥もない。ユーモアがあるわけでもないし、要領よく立ち回る器用さも持ち合わせていない。なのに彼の周りには人が集まり、教会員は皆よく働く。次々と大きな仕事をこなしていかれた。実業家としても一流の実力者だった。

後宮さん（以下こう呼ぶ）は海軍兵学校を卒業後、将校として海軍に入り、軍艦「霧島」に乗り、真珠湾攻撃に参戦している。親戚に当時の陸軍大将、後宮淳氏がおり、いわば超エリートの軍人家系である。

そんな彼であったが、敗戦と病気の失意の中で、悩んでいたときにお母さんの薦めで榎本保郎（私の兄）に出会い、キリスト者となった。

そのころ、戦後、陸上自衛隊の前身である警察予備隊が作られ、政府からその幹部にと要請されるが、その道を断って、伝道者になる決心をした。

個人的なことになるが、後宮俊夫さんは私が中学生の時、姉の松代と結婚し、義兄に当たる。二人で淡路の実家を訪ねて来たことがある。寅さんの持つような四角い鞆を持った人で、口数は少ないが、にこにこした優しいおじさんという印象だった。

姉と二人で京都の南部にある大住村（当時）に入り、大住伝道所と保育園を始めた。榎本保郎が大衆伝道者であるとするなら、後宮さんは、個別伝道者と言えるだろう。ごく地味な伝道者である。それが大住の人たちから信頼され、愛された。どんな恐ろしいことがあっても動じない度胸のある人だ。悩みを抱えて相談に行くと、親身になって悩んでくれる。最後に「神様がいいようにしてくれる」で祈って終わる。

後宮さんは自分の人生を振り返り、こう言った「わたしは何一つ自分から願ってやったことはない。行け言うから行き、来い、と言うからついて来ただけ」。

彼はまた、大事な判断の基準を「わが思いではなく御心を」に定め、「迷ったときは『いやだなあ』と思う方を選ぶと間違いはない」と言っていた。だからどんな圧力にも動じない人だった。大きな方向性は、決してぶれない。「御心を問う」ことに徹していた。失敗を責めないで大目に見てくれる優しい人。だから誰からも信頼された。

それでも時々雷が落ちることがある。そのときは誰もが震え上がる。元海軍将校の本性が出た。

教会の働きの傍ら、世光福社会、京都教区総会議長、教団総会議長、学校法人敬和学園理事長、ケアハウスピスガこうせい、デイケア「おしどり」設立など、働きは多岐にわたった。

最後まで世界の平和と正義を祈り、実践された方であった。神が用いられた不思議な指導者であった。

◇おさそい◇



7月1日(月) 13:30~16:30

「聖書をいっしょに読みましょう 2019」④

座長 榎本 栄次(関西セミナーハウス所長代行)

7月20~21日(土16:00~日12:00)

開発教育セミナー②

「パレスチナ問題はなぜ解決しないのか?
~その始まりとこれからを考える~」

講師 役重 善洋(パレスチナの平和を考える会)

7月27日(土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「社会」①<平和を考える-2>

「憲法9条と自衛隊一両立か対立か」

講師 松竹 伸幸(かもがわ出版編集主幹)

✧ なんどきですか ✧

・嫌な事件が相次ぎます。「引きこもり」と言われる男性が小学生の群れを襲う殺傷事件。追って、元政府高官が部屋に閉じこもり働こうとしない息子を刺し殺す事件。地獄のようだ。

・高齢者が無謀な運転をして大事故を起こす。私も運転免許証を返さねばならないのだろうか。

・「非生産的」と言われる人は、この世の中にいないほうがいいのだろうか。有能な正しい人、元気な人ばかりにしないでこの社会はだめになるのだろうか。そうではない。そうなるともっとひどくなる。

・イエスの言葉を思い出す。「わたしが来たのは正しい人を招くためではない。罪人を招くためである」と。

(by E. E)

投稿

京都俳句きらら会他

- | | |
|-----------------|-----|
| ・新緑に浸かり溶け行く憂いかな | 星児 |
| ・輝く目初乗りセーラー瀬戸の海 | 海楽 |
| ・父好みしこの香この味新茶汲む | 公女 |
| ・花屑を隅に吹き寄せつむじ風 | 小次郎 |
| ・庭端で三色すみれ華やいで | 枯骨 |
| ・水打てばぴょんと飛び出す雨蛙 | 虚舟 |
| ・吹き流す雨の晴れ間に令和の鯉 | 周豊 |
| ・子は両手上げて穂麦の中を来る | 岳 |

♥有り難うございました♥

関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2019.3.1-4.30 順不同・敬称略

島田誠一、網野俊賢、金山顕子、村上みか、森口克洋、北垣宗治・景子、柳井一朗、日本基督教団京都教会、日本基督教団宇治教会、真鍋裕子、特定NPO 法人開発教育協会、横田穂美、中村信博、梅山猛、小澤妙子、五十嵐萬里子、根岸宏邦、浅川具美、細田和民、松岡蓉子、平林喜博、相浦和生、蔭山淳、山本貴之、林律、榎本栄次、黒田睦子、川北かおり、シュペネマン クラウス、上條美代子、浅田涼子、木下壽子、伏木信次、鳥井清司、鳥井操、松本嘉一、李善恵、古賀暢子、中山晴美、柳井繁彌、奥田美代子、間瀬啓允、浦晴子、南和子、桑島伸一、松平千鶴子、竹下、上西、勝谷、二山百合子、米澤敏子、君村昌、廣瀬芳之、姫野真知夫、山崎和明、桃山アシュラム、津田昭二、飯田ふみ子、西川悠貴、水戸潔、小久保正、日本基督教団西が丘教会、京滋キリスト者平和の会。

関西セミナーハウスの四季だより ~ 森の中の営み ~ 庭園担当 榎 廣光

高さ20m以上はあろうかと思われるエノキの大木が高々とそびえ立っている。関西セミナーハウスの西隣だ。色鮮やかな新緑がおいしげる高枝の西の彼方。澄んだキャンパスには春の名残か、綿雲がポツカリと浮かんでいる。朝日はギラギラと輝いて、まるで真夏日のようだ。

今の時期、毎年姿を見せているものがある。お茶室清心庵あたりの小木の茂みをそっと覗いてみると、池際の小枝の陰にモリアオガエルが数匹うずくまっている。ちょうど今が産卵時期である。その枝先に拳大の白い泡状の卵塊が二つほどぶらさがっている。オスは親指大ほどで、目のまわりは金粉のアイシャドーを塗ったようで実にかわいい。メスはオスの倍ほどある。モリアオガエルも人為的環境の変化によって絶滅危惧種として国のレッドリストに指定されている府県も多いようだ。さいわい京都は自然環境が保全されているのかレッドリストに指定されていない。

もう一つうれしい出来事がある。ツバメが初めて巣を作ったのである。関西セミナーハウスの二階エレベーター乗降口近くの天井だ。巣の上の縁から、いつも親鳥が尾っぽを覗かせているのだろうか。去年は、巣作りはしたものの途中放棄してしまった。安全、安心が足りなかったのか。

数多くの野生動物や小鳥、小さな生き物たちの営みの息づかいが山麓や関西セミナーハウスの森に響きわたり、それがこだましてくるようだ。

いつまでもこの豊かさが続くことを祈りたい。だが温暖化や大量のプラスチックゴミの影響が危惧される。差し迫っている。一人ひとりがしっかりと認識しなければならない。

